

# 予約制バスについては、よりていねいに説明を 総合事務所が今年も地区別懇談会開催

6月6日、7日と、吉川区総合事務所の地区別懇談会が7会場で行われました。新年度の主要事業などについての説明と懇談が主な内容です。今回は市社会福祉協議会吉川支所も参加して同協議会の事業説明もありましたので盛りだくさんとなりました。参加者は約100人。

## 路線バス見直しに大きな関心

2日間の懇談でもっとも関心が高く、発言が多かったのは路線バスの見直し問題です。7月から初めてデマンド型運行（事前に予約があれば運行する仕組み）となる山直海線（やまのうみせん）。同線を通院、買い物物の交通手段として活用している人たちは源地区会場に大勢参加しました（写真左上）。そして日頃、こういう場でほとんど発言したことのない赤ちゃんたちが、「おら、毎日、予約で電話なんかできない。忘れてしまう」「バスが毎日通っていないと安心できない」などと訴えました。デマンド型運行については丁寧過ぎるほど丁寧に、かつ分かりやすく説明し、慣れてもらわないとう



まくいかないと感じました。路線に大きな変更のある旭地区会場でも、少ない懇談時間の中で、「くびき駅線、梶に寄ってもらえないか」「鶉の浜線は確かに利用が少ないが通学に支障はないのか」などの発言がありました。

吉川地区会場では、「くびき駅線のダイヤで湯沢方面の電車に4分遅れで間に合わないものがある」というのがあり、注目しました。今回の見直しにあたっては、朝夕の通勤・通学での電車の乗り継ぎを最優先することがいわれていましたが、なかには電車との接続がうまくいかないケースもあることがこの人の発言でわかりました。こうしたケースは他にも数件ありました。ダイヤの編成はなかなか難しい。

## 上下浜駅乗り入れで最終的な詰め

竹直地区会場では、バス路線の見直しで新たな路線となる上下浜駅線についての関心が高く、駅構内（写真右下）まで乗り入れは可能かなどの質問が相次ぎました。総合事務所の説明によ

ると、小型バスになるかどうかを含め最終的な詰めに入っているとのことでした。路線バス見直し問題は来年3月末までの実

証運行の中でしっかりと検討していかねければなりません。

新年度の主要事業に関して質問が相次いだのは鳥獣被害対策でした。

参加者からの発言で、カラス、サギ、イノシシ、カモシカなどの被害の広がりを感じました。サギ、イノシシの被害は中山間地、平野部どちらにも広がっていて、梶、道之下、石谷の参加者から対策強化の声が上がりました。担当グループの説明では区内に2か所にイノシシ捕獲用オリを設置するほか、人身被害まで出そうな危険が迫った時には、今年度からはじめた「鳥獣特別捕獲員」（柿崎区・吉川区で4名）を派遣することでした。

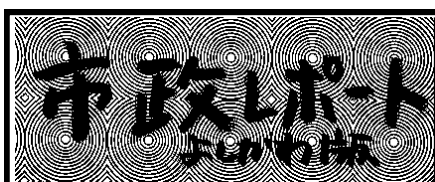


【スイカズラ】花言葉は「愛の絆」。原之町にて7日撮影。

## 通学バス見直しでも発言相次ぐ

全体として若い人の参加は少なかったのですが、東田中地区など3会場で児童生徒を持つ参加者などから通学支援費・スクールバス等の新基準に関する要望が出ました。泉谷地区会場（写真左中）では、「スクールバス運行は学校統合の歴史的な経過がある。有料化するなんてとんでもないこと」などの強い発言がありました。また竹直地区会場においては、「当面係する保護者だけでなく、もっと広く説明し、意見を聴くべきだ」との発言もありました。これらの発言を聴いていて、保護者だけでなく、市民の皆さんから納得してもらうには、多少お金がかかっても一番いい水準で統一しないとだめだと思いました。この問題は今後、夏から秋にかけて熱い政治課題となります。

私の一般質問については紙面の都合で次号に掲載します。



NO 1401  
2009.6.14

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>